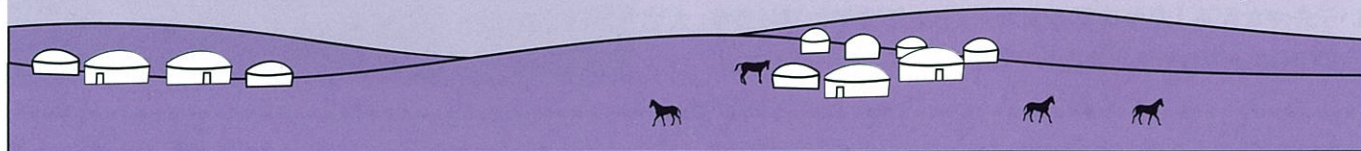


Newsletter

vol.36

「びあかも&丘のいえ」日記⑬●
 パオ12周年イベントリポート●
 教えて!ばおぞうさん「番外編」●



パオの
 現いま在

「びあかも&丘のいえ」日記 ⑬

4月からシェルター「丘のいえ」を再開しました。8月までに入所した子は既に12人になりました。開始早々、こんなにも利用する子がいるとは思っていませんでしたので、驚いたと同時に、それだけ行き場がなく困っている子どもたちも多いことが今の現状なのだという感じています。

「丘のいえ」は、虐待などさまざまな理由で、その日に家に帰ることができないという子が利用することが多いため、着ている衣類しか持っていないという子や、荷物が何も無い子が多いです。子どもたち自身も「丘のいえ」がどんなところなのか大まかな説明は受けていても、実際に見ていないのでイメージできないまま来所して、緊張や不安でいっぱい表情をすることが多いです。

「丘のいえ」のスタッフの仕事を紹介します。

衣類・食事の提供がまず第一です。一人の空間になれる部屋の整備や、子どもたちがリラックスした時間を過ごせるように漫画や本のほか、お菓子作りや手芸ができるような物品を用意します。手芸では得意なボランティアさんにいろいろ教えてもらえるように依頼します。

シェルターは緊急避難場所としての性格があるので一人での外出ができません。時間を作りスタッフが同行して、買い物などをして気分転換を図ることに努めます。生活する環境だけでなく、今後の落ち着き先についても、児童相談所や関係機関、担当弁護士に本人の様子を報告し相談します。関係機関とはなるべく細かく情報交換することで、別の角度からの子どもの様子が見えることもあります。

入所当時は不安な様子でも、温かいご飯を食べ、一人の部屋で自分だけの布団で寝ることで、少しずつ表情も柔らかくなっていくなあと、今までの子どもたちの様子を見て感じます。スタッフとも一緒にテレビを

見たり、一緒にご飯を食べたりして、ともに生活をする中で少しずつ慣れていくようです。あまり大人に自分の気持ちを伝えることができなかつた子も、自分から話せるようになっていたりしていき姿を見られるようになりました。

また、過去の自分と向き合いながら、今後の自分の目標を考え見つけ出すことが、自然とできている子が多いとも感じています。一人で外出ができないので、ストレスが溜まるのではないかと心配でした。しかしスタッフやボランティアさん、弁護士さんなど、さまざまな人が出入りすることや、温かみのある部屋の内装などが影響しているのか、ゆっくりテレビを見たり手芸やお菓子作りをしたりすることで、子どもたち自身が自然と前向きに今後について考えていく気がします。そんな子どもたちの姿を見て、私たちスタッフが改めてシェルターの大切さを実感し、さらに子どもたちに元気を取り戻してもらえようという関わり方をそれぞれが考え、努力していこうと思っています。

シェルターとして、まだまだ課題・改善点はありますが、子どもたちが過ごしやすい、安心安全の環境を提供できるように取り組んでいきたいと日々考えています。
 (「丘のいえ」施設長)

※シェルター「丘のいえ」再開にともなって、1面でお届けしている「『びあ・かもみる』日記」のタイトルを変更しました。

